



一 次の文を読んで、答えましょう。

雲ひとつない青空の下、ぼくはむねを高鳴らせ、スタートの時を待っていた。今日はじきゅう走大会。四年生は一〇〇メートルを走ることになっている。ぼくは走るのが手で、練習ではいつもとちゅうで歩いてしまっていた。ぼくのじきゅう走大会の目ひようは、一度も歩かずに走りきることだ。

毎日いっしょうけんめい練習したんだからだいじようぶ、と自分に言い聞かせ、スタートラインに立った。スタートの合図で地面をいきおいよくけた。うでをリズムよくふり、前へ前へと足を動かした。よいスタートがきれて、ぼくはうれしくなった。

しかし、半分以上を走ったところから苦しくなってきた。体に力が入り、うまくいきがすえない。こきゅうと体のリズムが合わず、足が重たくなってきた。くるしい。もうだめかな。

そう思った時、みんなの声が聞こえた。

「もう少し。がんばれ。ゴールできるよ。」

あきらめかけていた手と足に、力もどってきた。

「やったあ。さいごまで走りきれた。」

ぼくは大きな声でさけんでいた。

(一) スタートラインに立ったとき、ぼくはどんなことを考えていましたか。(三十点)

(二) ぼくはうれしくなった。とありますが、それはなぜですか。一つえらび、() に○をつけましょう。(二十点)

() 雲ひとつない、よい青空の下で走ることができたから。

() みんながおうえんしてくれたから。

() リズムよく走ることができ、ゴールまで走りきれそうだと思ったから。

(三) 半分以上を走ったところ、ぼくの気持ちはどのように変わりましたか。(二十点)

(四) みんなの声で、ぼくががんばろうとする気持ちになったことが分かる文をさがし、書きぬきましょう。

(三十点)